

中学校における主体的・対話的で深い学びの姿

2学期に入ってから、にのみや学園の各校において校内研究プロジェクトが本格的に始まっています。9月17日(水)は二宮中学校にて校内授業研究会が行われました。3年生の全クラス(A組は数学、B組は社会、C組は保健体育)にて研究授業が行われました。

数学は二次方程式、社会は経済成長と私たち、保健体育は器械運動の学習を行いました。どの授業も教師からの一方的な指導ではなく、学習課題を自分事として捉えられよう工夫された授業が展開されていました。タブレット端末の活用だけではなく、グループでの話し合いや実技では、友達の意見にしっかりと耳を傾け、自分の考えとの関係性を意識しながら自らの学びを深めていました。



授業後、すべての教員が一同に会し、グループごとに授業者と共に研究授業を振り返りました。先生方は、自らの指導力向上のために生徒たちの話し合い活動同様に熱心に意見交換を行っていました。その後、二宮町教育力向上アドバイザーの吉新一之先生の指導講評をいただきました。

吉新先生からは、にのみや学園の現在の取り組みは、紛れもなく次期学習指導要領の実現に向けた取り組みそのものであり、『本質的な小中一貫教育』の実現を常に目指していくことが大切であるというアドバイスをいただきました。さらに、本質的な小中一貫教育とは、『9年間を通してこれからの時代に必要な資質・能力を育てていく学びをデザインし、子どもの成長を切れ目なく支えることにある』という『本質的な小中一貫教育』の在り方の指針をいただきました。吉新先生ありがとうございました。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

～実現するために大切なことは、本質的な「小中一貫教育」を実現すること～

現在の取り組みは、次期学習指導要領の実現に向けた取組そのもの

「深い学びの実装」

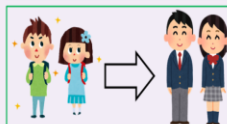
- ①深い学びの実現に向けた取り組みの重視→問題解決で「最適解づくり」と「合意形成」を学ぶ
- ②主体的な「対話」と「話し合い」の重視によって、追究力を養い「協働的な学び」を充実させる
- ③学びを「自分事」にして「深い学び」を実現する
- ④学び合いと助け合いにより「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

「多様性の包摂」

- ④受容的で、どの子にも居場所があり、安全・安心な学級づくり
- ⑤自分達の話合いで、規範を作り、それに基づいて行動できる学級集団づくり
- ⑥毎日・毎時間の学習を通して、よりよい人間関係づくりを積み重ねていく

実現

小中一貫教育



基本的な考え方

小中一貫教育の目的を「資質・能力」を育成する「主体的・対話的で深い学び」の実現にして

「共通性と一貫性」の手立てで「9年間連続」して「資質・能力」を育成することで

義務教育終了にふさわしい「学力」と「成長」を保障できる

研究会に取り組む二宮中学校の先生方の姿には、今後も子どもたちと共に学び続け、教師として成長していくとする前向きさを感じました。・・・すべては「にのみや学園の子どもたち」のために・・・

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>

